

# 平成30年度 学校関係者評価報告書

学校名：あいち福祉医療専門学校

## 1 学校目標

- ・第2世代福医専として新たな10年、20年を踏み出す学校づくりに向けて常に学校経営理念を再認識し、前年度実績を踏まえより一層の教育力と協働意識を高める。
- 1) 情報の共有・協働 2) 出席率98%超、退学率5%以内、進級率・卒業率93%超 3) 国家試験合格(資格取得)率90%以上、年度内就職率100%
- 4) 総定員充足率80%(352名)の確保 5) 校友会運営の協働(部会活動の活性化) 6) 介護実習ガイダンス・指導者研修会の企画実施
- 7) 介護指導専門員(ケアマネジャー)受験対策講座のeラーニング支援 8) 出前授業・総合学習受け入れ促進
- 9) 学園が展開する海外との教育連携とともに実際の取り組み 10) 介護福祉学科外国人留学生受け入れ・留学生教育体系化 11) 入学生176名の目標
- 12) 体験入学参加者数580名以上、参加者歩留まり45%以上 13) SNSおよびトピックス活用の情報共有とホームページ広報の活発化
- 14) 経費節減、教育研究費・管理経費の経年把握のもと5%削減 15) ペーパーレス意識の強化 16) 養成施設指定規則に準拠する教育環境整備および管理
- 17) 各数値目標の階層的把握 18) カリキュラムマップ(AP-CP-DP)ロードマップを延伸する卒業教育
- 19) 情報の共有・協働を見える化するコミュニケーション促進

### 学校目標に対する評価・意見

- ・学校経営理念にある人材の育成のため、より一層の教育力の協働意識を高めるよう願う。
- ・総定員充足率80%、介護福祉学科と精神保健福祉学科については減少傾向にあるのは残念です。入学広報について検討すべきではないか。
- ・入学者の獲得について、どのような目標をたてて、その具体的な取り組みについてどのようなのか。
- ・介護職員の人材が少ない中、今までのように教育をしっかりと高年齢社会に役立つ人材の育成をしてほしい。
- ・国家試験合格率を上げるためには、一定以上の学力がある学生の入学をすすめることは重要である。
- ・資格取得の合格率の底上げについて、どのような目標をたてて、どう取り組んでいるのか。
- ・過去の退学者の理由および現状の対応について、どのように実施して目標を立てているか。
- ・教育機関としての社会貢献を今一度見直し、医療技術職等の普及について目標設定してはどうか。
- ・体験入学者も多いが歩留りが半数超えなので、募集に関しての改善方針が書かれてないのが気になる。
- ・課題と改善策は書かれている項目はあるが、自己評価の意味づけなど一緒に書かれていると比較しやすい。内容により妥当か判断し辛い。
- ・福祉・介護離れがある中で、入学生が県内でも多く資格取得や就職率も高い位置で保っているのが妥当な評価である。
- ・学校自己評価報告書について改善に向けた実際の取り組みが、殆どがほぼ適切な取り組み以上がされている。学生減少傾向にある中、充足率80%あるのは貴校の取り組みが評価されているからだと思う。また立地条件も良いと思う。
- ・少子化の中で学生募集・国試対策・経営面も十分なされていると思う。
- ・学生への支援として、不安定な人へ心理士の面接があると聞きとても良いと思う。
- ・海外研修については現実的に難しいと思う。計画としては継続してほしいが今のままで十分である。

## 2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方針が適切か
基準1(教育理念・目標)	3.9	3.8	3.8
基準2(学校運営)	4	4	4
基準3(教育活動)	3.8	3.6	3.8
基準4(学修成果)	3.6	3.3	3.5
基準5(学生支援)	3.9	3.5	3.5
基準6(教育環境)	3.8	3.8	3.9
基準7(学生の受け入れ募集)	3.9	3.9	3.8
基準8(財務)	4	3.9	3.8
基準9(法令等の遵守)	4	3.9	3.8
基準10(社会貢献・地域貢献)	4	4	3.5
基準11(国際交流)	3.8	3.5	3.6

## 3 今後の改善意見

- ① 高校生に対する出前授業などで広報活動し入学につなげてほしい。また、卒業生に向けても研修を実施し、フォローアップできる環境を整えてもらうように期待する。
- ② 養成校から職能団体へつなぐシステム作りを行い、人材育成を目指してほしい。介護福祉士会としても協力していきたい。
- ③ コミュニケーション力の向上の対策として、ロールプレイや模擬カンファレンスを行ってはどうか。
- ④ 臨床施設など現場のニーズに沿うことのできるよう意見交換を行い方針に取り入れてはどうか。
- ⑤ 入学者を増やすためにPT・OT科の売りになる具体的な取り組みを明確にして、地域を担える人材を育てる環境・教育を実施していく。
- ⑥ 国試前の卒業試験のハードルを上げて合格者に国試受験をさせる。
- ⑦ 体験入学から入学を決めた学生も多いと思うので、具体的な決め手や気持ちが動いた出来事など聞き取り、HPに掲載してはどうか。
- ⑧ ケアマネジャーの受講者はいないが発信には力を入れないのか。育成人材像にもつながると思うので在学中だけでなく今後も医療福祉を担う人のためにアピールしてほしい。

## 4 今後の具体的な改善方針

- ① 高校生に対しては出前授業や高校内ガイダンス等、引き続き積極的に参加し学校の広報を継続する。卒業生に対しては校友会の組織化を実現し、卒業勉強会のさらなる充実を図り卒業後の不安を軽減する。
- ② 認定作業療法士取得、県士会活動への参加。  
介護福祉士会入会説明会日程を、卒業直前から実施時期を見直す。介護福祉士会主催の無料研修等、在学中にアピールする。詳細は、介護福祉士会と調整。
- ③ 既に実施済ではあるが、頻度を高め質的向上、成果につながる工夫を重ねる。理学・作業では1年次の前期末に、2年次の1月にOSCE(客観的臨床能力試験)を導入しており、模擬患者ではあるがコミュニケーション能力の一層の向上に努める。
- ④ 既に実施しているが、内容は現場からの意見を反映し適宜見直ししていく。臨床実習指導者会議、実習巡回時を利用し情報交換及び情報収集を適切に行う。
- ⑤ OSCEや国家試験の全員受験などの本校の取り組みを紹介するとともに、その取り組みの中に就職後にも活かせるような協力や相互扶助の経験を重ねていく。教員の学会等での発表に取り組む姿を通じ学生のモデルとなる。
- ⑥ 国家試験受験の足切りは現状では検討しないが、全員受験をより特色化するために国試前の学生にとって良い刺激となるような試験の導入を行う。
- ⑦ HPやSNS更新の頻度を高め、学校情報の掲載。体験入学に協力してくれる在學生に自分たちの経験や経緯を参加者に紹介する機会を設ける。
- ⑧ 引き続き、HP上に限るが広報を継続する。特に対象卒業生への周知を実施する。